聖徳大学創立10周年
聖徳大学短期大学部創立35周年
聖徳大学大学院博士課程開設記念

「オスカー・ワイルドの世界」展

オスカー・ワイルドの生涯　オスカー・ワイルド略年譜　出品目録

「オスカー・ワイルドの世界」展の開催にあたって

本学の川並記念図書館にも、ワイルドの貴重な文献や資料が所蔵されています。今年は本学の大学開設10周年、短大部の35周年、そして大学院博士課程の開設と、数々の喜びを集めて、各種の記念行事が展開されています。その一環として、彼の没後100年を記念し、「オスカー・ワイルドの世界」展を開催することにしました。

かつての懐かしい「幸福」を確かめるように、気恥ずかしさを隠して、改めてワイルドの童話を読み直してみました。やはり「ナイチンゲールとバラ」や「幸福な王子」は、私の期待を裏切ることはありませんでした。ワイルド自身が、2人の幼い息子を思い、語りかける口調で書いたものと聞き及び、なるほどと、その読後の感動が納得できました。

そこに謳われている、人間の善性に対する信頼の、何と真摯なことか。その美しさの、何と敬けんなことか。そして、そこに流れるカトリシズムの、何と悲しく哀れみ深いことか。熱い涙に目頭をうるませるひとときでした。ワイルドが時代によって告発され、裁かれるなんて、不条理な「魔女裁判」にすぎなかったようにも思われます。結局のところ、ワイルドは、ごく普通の、優しく思いやりのある人、ただ、善人にしては才能がありすぎたのでしょう。その華麗な文体が、傷口に滲む血のように見え、痛々しく思えてなりません。

この「オスカー・ワイルドの世界」展が、もう一つの殺風景な世紀末を生きる私たちの、「優しいもの、美しいものがみな枯れて沈む」といった寂しさを和らげ、やがて訪れる新しい世紀に、夢と希望と、生きる勇気とを繋げることができれば、と祈らざるを得ません。本学が目指す「人間性」を呼び戻す、そのきっかけともなれば、望外の喜びです。

平成12年11月27日

学校法人東京聖徳学園理事長
聖 徳 大 学 学 長
聖徳大学短期大学部学長
学 園 長 川並 弘昭

オスカー・ワイルドの生涯

オスカー・フィンガル・オフレアティ・ウィルズ・ワイルド、通称オスカー・ワイルドは、1854（安政1）年10月16日にアイルランドのダブリンで出生した。幼少期は、娘が欲しかった母親に女児として育てられた。

学生時代、ヘレニズムとカトリシズムに強い影響を受けた彼は、当時の社会に存在した階級差別に対峙し、博愛精神と平等精神を持ち続ける。また、ある程度道徳を無視しても自分が美しいと思うものを追求する姿勢を貫き通しており、その相手がたとえ同性であってもそれは変わることがなかった。

アルフレッド・ダグラス（通称ボジー）との同性愛をめられたワイルドは、裁判に敗訴し2年の懲役刑が決まり収監される。出獄後のワイルドに世間の風は冷たく、彼はフランス、イタリアなどで貧しい生活を送る一方、ダグラスとは別れ、妻にも先立たれるなど不遇であった。そして1900（明治33）年11月29日カトリックに帰依したが翌日の11月30日、脳膜炎のためパリでこの世を去った。

オスカー・ワイルド略年譜

1854（安政1）（0歳）	10月16日　アイルランドの首都ダブリンで誕生
1864（元治1）（10歳）	北部の州ファーマナーのエニスキリン町の王立学校に入学
1870（明治3）（16歳）	「ギリシャ語聖書」の最優秀者として「カーペンター賞」受賞
1871（明治4）（17歳）	「古典語優秀者」として「ポートラ金賞」受賞 トリニティ・カレッジに入学　マハフィー教授に師事する
1874（明治7）（20歳）	オックスフォード大学モードリン・カレッジに入学
1876（明治9）（22歳）	文学士公式第一次試験に主席で合格 ラスキンやペイターの芸術的感化を深く受け始める
1878（明治11）（24歳）	332長編詩『ラヴェンナ（Ravenna）』でニューディゲイト賞受賞 オックスフォード大学モードリン・カレッジ卒業 文学士の学位を得る
1880（明治13）（26歳）	最初の悲劇『ヴェラ（Vera）』を書く
1881（明治14）（27歳）	『詩集（Poems）』を自費出版 ワイルドの唯美的衣装とポーズを風刺した歌劇『ペイシェンス』上演される アメリカに渡り講演旅行で歌劇の人気を支える
1884（明治17）（30歳）	ロンドンでコンスタンス・メアリー・ロイドと結婚
1885（明治18）（31歳）	長男シリル誕生
1886（明治19）（32歳）	次男ヴィヴィアン誕生 17歳のカナダ人美青年　ロバート・ロス（17歳）と出会い、同性愛に目覚める
1887（明治20）（33歳）	雑誌「女性世界」の編集長就任（～1889年6月） 『模範的な大金持（The Model Millionaire）』を発表
1888（明治21）（34歳）	最初の童話集『幸福な王子とその他の物語（Happy Prince and Other Tales）』を出版
1889（明治22）（35歳）	"評論　『虚言の衰退（The Decay of Lying）』『ペン・鉛筆・毒薬（Pen, Pencil and Poison）』『W. H. 氏の肖像（The Portrait of Mr. W.H.）』を発表" 「女性世界」の編集長を辞任
1890（明治23）（36歳）	唯一の長編小説『ドリアン・グレイの画像（The Portrait of Dorian Gray）』 評論『批評の真の機能と価値（The True Function and Value of Criticism）』（後に『芸術家としての批評家（The Critic as Artist）』と改題）を発表
1891（明治24）（37歳）	21歳のアルフレッド・ダグラス（通称ボジー）と出会い、身の破滅を招くこととなる 評論『社会主義下における人間の魂』を発表 『ざくろの家（A House of Pomegranates）』を出版 『アーサー・サヴィル卿の犯罪（Lord Arthur Savile's Crime）』を出版 『意向集（Intentions）』を出版 『サロメ（Salome）』（仏語版）執筆（出版は1893年）
1892（明治25）（38歳）	最初の喜劇『ウィンダミア夫人の扇（Lady Windermere's Fan）』を上演 宮内長官の命により『サロメ』の上演禁止となる
1893（明治26）（39歳）	『なんでもない女（A Woman of No Importance）』を出版
1894（明治27）（40歳）	ダグラスによる英訳　ビアズリーの白黒の線描画挿絵入り『サロメ』を出版
1895（明治28）（41歳）	喜劇『まじめが肝心（The Importance of Being Earnest）』を初演（出版は1899年） ダグラスの父　クインズベリー侯爵によって告訴され、逮捕される　「重労働を含む2年の懲役」の判決後、レディング監獄に収監される 喜劇『理想の夫（An Ideal Husband）』を出版

1897（明治 30）（43 歳）	1月から3月まで　一回一枚の紙を与えられ、ダグラス宛ての手紙を書く（これが後の『獄中記』である） 5月　出獄
1898（明治 31）（44 歳）	夫の罪を背負い、2人の子どもからも引き離されて、妻コンスタンスはジェノヴァで死去（享年 41歳） 詩『レディング監獄の歌（The Ballard of Reading Gaol）』を出版
1899（明治 32）（45 歳）	喜劇『まじめが肝心』を出版
1900（明治 33）（46 歳）	11月 29日　カトリックに帰依　翌 11月 30日　脳膜炎のためパリにて死去　葬儀の参列者は数人であった
1905（明治 38）（没後 5 年）	『獄中記（De Profundis）』を出版
1909（明治 42）（没後 9 年）	遺骸は郊外のバーニュー墓地に埋葬されていたが、彼の友人のコウルリッジ・ケナード卿の母へレンカルー夫人の援助で、現在のペール・ラシェーズ墓地に改葬される

※　邦記については、『オスカー・ワイルド事典』（北星堂　1997年）の表記に統一してあります。

出 品 目 録

作　　品　　名	出 版 年
The Happy Prince and Other Tales（初版本）	1888年（明治21）
『幸福の王子』（井村君江訳）	1989年（平成　1）
The House of Pomegranates（『ざくろの家』）	1891年（明治24）
Poems（『詩集』）	1892年（明治25）
『ウィンダーミヤ夫人の扇』（Lady Windermere's Fan）（谷崎潤一郎訳）	1919年（大正　8）
A Woman of No Importance（『なんでもない女』）	1894年（明治27）
Salome	1906年（明治39）
『サロメ』（若月紫蘭訳）	1925年（大正15）
『SALOME』	1930年（昭和　5）
『サロメ』（福田恆存訳）	1958年（昭和33）
The Importance of Being Earnest（『まじめが肝心』）	1899年（明治32）
"The True Function and Value of Criticism" in The Nineteenth Century（『批評の真の機能と価値』）	1890年（明治23）
"The Picture of Dorian Gray" in the Lippincott Monthly Magazine	1890年（明治23）
The Picture of Dorian Gray（初版本）	1891年（明治24）
The Picture of Dorian Gray（挿絵入り初版本）	1908年（明治41）
『遊蕩児』（本間久雄訳）	1913年（大正　2）
『ドリアン・グレイの画像』（菊地武一訳）	1950年（昭和25）
Lord Arthur Savile's Crime and Other Stories	1891年（明治24）
『アーサー・サヴィル卿の犯罪他三篇』（内山正平訳注）	1966年（昭和41）
Some Letters from Oscar Wilde to Alfred Douglas	1924年（大正13）
The Ballard of Reading Gaol（『レディング監獄の歌』）	1899年（明治32）
De Profundis	1905年（明治38）
『獄中記』（神近市子訳）	1929年（昭和　4）

※　邦記については、『オスカー・ワイルド事典』（北星堂　1997年）の表記に統一してあります。